

経済学部A方式 I 日程・社会学部A方式 I 日程・現代福祉学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～17	日 本 史	18～29
世 界 史	30～41	地 理	42～49
数 学	50～51		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 地理は経済学部、社会学部を志望する受験生が選択できる。  
現代福祉学部を志望する受験生は選択できない。
4. 試験開始後の科目の変更は認めない。
5. 数学は以下の注意事項に従うこと。
  - ・解答用紙の所定の欄に受験学部を○で囲むこと。
  - ・解答を導く途中経過も書くこと。
  - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
  - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
  - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
6. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

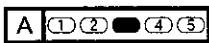
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

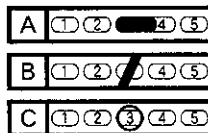
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

395年のローマ帝国の東西分裂後、コンスタンティノープルを首都としてローマ帝国東部を支配したビザンツ帝国の歴史は、当初のローマ帝国の伝統を守ろうとした第一の時期、ギリシア語を公用語とするなど、ローマの伝統から離れていく第二の時期、そして衰退に向かう第三の時期に分けることができよう。

ローマの伝統を守ろうとする意志をもっとも強く示したのは6世紀に登場した **A** 大帝である。彼は「キリスト教のローマ帝国」という理念をかかげ、地中海帝国の復活を目ざし、かつてのローマ帝国の各地を支配するようになったゲルマン系諸族に闘いを挑んだ。彼は北アフリカの **B** 族とイタリア半島の **C** 王国を滅ぼし、またイベリア半島の **D** 王国から領土を奪い、一時的に地中海のほぼ全域を支配下においた。内政では **ア** の編纂や首都での大聖堂の建立などの大事業に力をそそぐ一方、中国から養蚕技術を取り入れ、絹織物産業発展の基礎をきずいた。<sup>(2)</sup>しかし長期の征服戦争で国力が低下し、帝の死後、ビザンツ帝国の支配圏はしだいに縮小していった。

第二の時期はヘラクレイオス1世の時代から始めることができよう。この時期には東方にあった巨大な勢力と対抗し、さらに東方に生まれた新しい勢力に対抗する<sup>(3)</sup>必要が生じた。このため帝国をいくつかの軍管区にわけ、その司令官に軍事と行政の権限を与える **E** 制がしかれた。この制度のもとで、農民に土地を与えるかわりに兵役義務を課す屯田兵制がおこなわれたため、小土地所有農民がふえ、彼らが帝国の繁栄をささえる基盤となった。帝国の精神的支柱であるコンスタンティノープルの教会は、聖像の扱いをめぐる西のローマ教会と対立した。ローマ教会はゲルマン人への布教のために聖像を利用していた。しかしコンスタンティノープルの教会は偶像をきびしく否定する **イ** 教と対抗する必要に迫られたため、726年ビザンツ皇帝 **F** 3世は聖像禁止令を発布した。こうしてキリスト教世界の東西分裂が深まった。とりわけ800年におこなわれた、ローマ教皇レオ3世によるフランク王 **G** の戴冠は、ローマ帝国の

継承者を自認するビザンツ帝国に対する重大な挑戦であった。マケドニア朝のバシレイオス1世のもとでビザンツ文明は第二の黄金時代を迎える。さらにバシレイオス2世(在位976~1025)はブルガリア人からバルカン半島を奪回する一方、キエフ公国の大公をギリシア正教へ改宗させてロシア人世界のビザンツ化を進め、帝国は繁栄の絶頂に達するが、その栄華は永くは続かなかった。

1054年に東西教会が完全に分離し、1071年のマンジケルト(マラーズギルド)の戦いでビザンツ軍が  朝軍に大敗を喫したあと、ビザンツ帝国は衰退期を迎える。1081年に即位したアレクシオス1世は中央集権を維持するために、軍役奉仕と引きかえに貴族に領地を与える  制をしいた。しかしこの制度のもとで土地が世襲化され、農民に対する領主の支配が強化されたため、帝国の分権化が進んだ。さらに皇帝は聖地イエルサレムを支配下においたイスラーム勢力に対抗するためにローマ教皇  2世に救援を要請した。教皇は1095年に公会議を招集し、聖地奪回のための聖戦をおこすことを提唱した。こうして翌96年に第1回十字軍が出発し、イエルサレムを占領してイエルサレム王国をたてた。北イタリアの商業共和国  に支援された第4回十字軍は、イエルサレムには向かわずコンスタンティノープルを攻略し  帝国をたてた。しかし1261年に、亡命政権ニカイア帝国の皇帝ミカエル8世がコンスタンティノープルを奪回してパレオロゴス朝を開いた。この王朝はローマ帝国史における最長の王朝となったが、歴代の皇帝は帝国の延命をはかることしかできず、1453年5月29日ビザンツ帝国はオスマン帝国皇帝  2世によって滅ぼされた。

問1 空欄  ~  に入る適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |          |          |            |
|----------|----------|------------|
| あ ヴァンダル  | い ヴェネツィア | う ウルバナス    |
| え カール    | お コロヌス   | か ジェノヴァ    |
| き テマ     | く 西ゴート   | け 東ゴート     |
| こ フィレンツェ | さ ブルグンド  | し プロノイア    |
| す メフメト   | せ モンゴル   | そ ユスティニアヌス |
| た ラテン    | ち ランゴバルド | つ レオン(レオ)  |

問 2 下線部(1)～(5)について、以下の問いに答えよ。

(1) 死にのぞんでローマ帝国を東西に分け二人の子に託した皇帝はだれか。

下記のなかから適するものを選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 コンスタンティヌス | 2 ディオクレティアヌス |
| 3 テオドシウス    | 4 ハドリアヌス     |
| 5 ユリアヌス     |              |

(2) この聖堂の名前は何か。下記のなかから適するものを選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1 サン＝ヴィターレ      | 2 サンタ＝マリア |
| 3 サン＝ピエトロ       | 4 サン＝マルコ  |
| 5 ハギア(セント)＝ソフィア |           |

(3) 東方にあった巨大な勢力とは何か。下記のなかからもっとも適するものを選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |          |          |        |
|----------|----------|--------|
| 1 アッパース朝 | 2 ウマイア朝  | 3 ササン朝 |
| 4 ムラービト朝 | 5 ムワッヒド朝 |        |

(4) この大公はだれか。下記のなかから適するものを選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 イーゴリ公           | 2 イヴァン3世       |
| 3 ウラディミル1世        |                |
| 4 カジミェシュ(カシミール)大王 | 5 ヤゲウォ(ヤゲロー)大公 |

(5) この教皇が招集した公会議をなんと呼ぶか。下記のなかから適するものを選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 カルケドン公会議       | 2 クレルモン公会議 |
| 3 コンスタンティノポリス公会議 | 4 ニカイア公会議  |
| 5 ラテラノ公会議        |            |

問 3 空欄 

ア
---

 ～ 

ウ
---

 にもっとも適する語句を解答欄に記入せよ。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

第二次世界大戦後の国際平和秩序は、国際連合に強力な権限を与えることでその実現が期待された。しかし、世界は米・ソ<sup>(1)</sup>両大国を中心とする東西両陣営に分かれ、軍事的・経済的支援によりブロックを強化・拡大して対抗するという冷戦体制となり、厳しい緊張状態が続くこととなった。

西側陣営においては、1946年に  による「鉄のカーテン」演説、翌年には  によって宣言された封じ込め政策、そして、1947年には  によるヨーロッパ経済復興援助計画<sup>(2)</sup>が発表された。これに対して東側陣営では、1947年に9カ国の共産党が情報交換機関として  を結成し、また東側陣営の経済協力機構として  を結成して対抗した。1948年のソ連によるベルリン封鎖を契機に冷戦はさらに激しくなり、アメリカは諸国と反ソ軍事条約を結んだ。その最大のものである  はワシントンで調印され、12カ国で発足した。ソ連はそれに対抗して1950年モスクワにて、アメリカや日本を仮想敵国とした  や、1955年に  に対抗するものとして東欧8カ国による  を結成した。

他方、アジア・ラテンアメリカ・アフリカ諸国<sup>(3)</sup>のなかでは米・ソいずれの陣営にも属さない第三勢力を形成しようとする動きや、支配国から自立をしようとする動きが成長してきた。例えば、中国の  首相は、インドの  首相と会談して、平和5原則を最終的にまとめた。また1961年にはベオグラードで、エジプトのナセルや  首相らの呼びかけで25カ国の参加のもと、 が開催され、民族解放の支援、植民地主義の打破を宣言して共同歩調をとることが誓われた。

ラテンアメリカ諸国では、リオ協定によって南北アメリカ大陸の集団防衛条約が結ばれていたが、合衆国の干渉に反発する民族運動もあらわれた。なかでも、 を指導者とするキューバ革命は、ラテンアメリカ諸国やカリブ海地域の革命運動や民族運動に大きな影響を与えた。

フランス支配下の北アフリカでは1950年代からモロッコ、チュニジアおよび  が民族解放闘争を起こしていたが、モロッコとチュニジアは1956年

に独立を果たし、また [イ] も、1958年にフランス大統領となった [7] によってその独立が認められた。

またイギリス支配下のアフリカ大陸では、サハラ以南における第二次世界大戦以後初の黒人国家として [8] を指導者とする [ロ] が独立したのち、1960年には一挙に17もの新興国家が生まれ、「アフリカの年」とよばれた。

1953年の [9] の死去以後、東西の緊張は緩和する方向へと向かった。1956年のソ連共産党第20回大会で、第一書記である [10] は [9] 批判と平和共存政策を打ち出し、 [A] を解散させた。 [10] はソ連の最高指導者として初めて訪米し、 [11] 大統領と会談し、これより米ソ協調の精神が生まれた。しかしながら、1962年、ソ連がキューバにミサイルを配備したことで再び米・ソ軍事衝突の危機は高まり、また1964年に第一書記となった [12] は、社会主義国から離脱しようとする国に対する内政干渉権を主張して、自由化を推進しようとしていた [ハ] へ侵入し、ドブチェクら首脳をソ連へ連行した。このことでソ連は国際的に非難され、東側における威信が低下した。また西側では、アメリカ合衆国も国内外の問題から国際収支が赤字に転じ、<sup>(4)</sup> 世界経済に衝撃を与えた。ここに1973年のオイル＝ショックが加わり、世界経済は深刻な不況に陥り、アメリカ、日本、西ヨーロッパの三極構造へと向かい始めたのである。

問1 空欄 [1] ~ [12] に入るもっとも適切な人物名を下記の語群の

なかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |   |          |   |        |   |        |
|---|----------|---|--------|---|--------|
| あ | アイゼンハウアー | い | アデナウアー | う | エンクルマ  |
| え | カストロ     | お | ガンジー   | か | コスイギン  |
| き | 周恩来      | く | シューマン  | け | スターリン  |
| こ | チャーチル    | さ | ド＝ゴール  | し | トルーマン  |
| す | ナセル      | せ | ネルー    | そ | フルシチョフ |
| た | ブレジネフ    | ち | マーシャル  | つ | 毛沢東    |

問 2 空欄  ～  に入るもっとも適切な語句を下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |                |              |
|----------------|--------------|
| あ アジア＝アフリカ会議   | い アセアン       |
| う アラブ石油輸出国機構   | え 北大西洋条約機構   |
| お コミンフォルム      | か コメコン       |
| き サンフランシスコ講和条約 | く 中央条約機構     |
| け 中ソ友好同盟相互援助条約 | こ 西ヨーロッパ連合条約 |
| さ 非同盟諸国首脳会議    | し ワルシャワ条約機構  |

問 3 空欄  ～  に入るもっとも適切な国名を、下記の語群のなかからそれぞれ一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- |             |          |
|-------------|----------|
| あ アルジェリア    | い ガーナ    |
| う ギニア       | え コンゴ    |
| お チェコスロヴァキア | か ナイジェリア |
| き ハンガリー     | く ルーマニア  |

問 4 下線部(1)が関与している中東戦争は、これまで4度にわたり繰り返され、今日まで紛争は続いている。以下の第一～第四次中東戦争にふさわしい文の記号を解答欄にマークせよ。

第一次中東戦争—  , 第二次中東戦争—  , 第三次中東戦争—  , 第四次中東戦争—

あ イスラエルがエジプトに侵入し、続いて英仏軍が出兵した。しかし、国連の即時停戦決議とソ連のエジプト支援声明が出され、侵入軍は撤退をした。この戦争はスエズ戦争ともよばれている。

い エジプト・シリアが先制攻撃をかけて交戦したが、イスラエルが反撃して軍事的には勝利した。しかし、アラブ側がイスラエルを支持する国々に石油を禁輸する戦略をとり、先進国に圧力をかけた。

う イスラエルの奇襲攻撃により6日間でアラブ諸国に圧勝し、シナイ半島など占領地を拡大した。国連決議により停戦したが、イスラエルは占領地からは撤退をしなかった。

え 国連のパレスチナ分割決議に基づいて建国したイスラエルに対して、アラブ諸国が反対をして武力介入した。しかしながらアラブ側が大敗し、分割案以上の土地をイスラエルに奪われた。

問 5 下線部(2)について、この援助を受けることになった西ヨーロッパ16カ国は、1948年に受け入れ調整機関を結成した。この機関の名称を下記の語群から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

あ ヨーロッパ共同体

い ヨーロッパ経済共同体

う ヨーロッパ経済協力機構

え ヨーロッパ自由貿易連合

お ヨーロッパ連合



問 6 下線部(3)の諸国のなかでは、経済開発を効率よく進めることを理由に、政治運動や社会運動の抑圧の正当化がはかられた、開発独裁とよばれる体制が出現した。これに関連する指導者名と国名の組み合わせで間違っているものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- あ ネ=ウィン ————— ビルマ
- い 朴正熙 ————— 大韓民国
- う パフレヴィー2世 ——— イラン
- え マハティール ————— インドネシア
- お マルコス ————— フィリピン

問 7 下線部(4)と同時期に生じた出来事について、間違っている記述を下記の選択肢から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- あ ジョンソン大統領は、ニューディール政策により社会保障法を制定し、積極的に経済に介入し景気や国民生活の立て直しをはかろうとした。
- い キング牧師は、非暴力主義の立場に立って人種差別撤廃運動を推進した。
- う 南北戦争後も公然と黒人への差別が行われていたなか、黒人の市民権を求める運動はベトナム戦争の批判と結びついて高揚し、ついに1964年7月に公民権法の制定へと至らせた。
- え ベトナム戦争におけるアメリカは、ダイオキシンなどの枯れ葉剤を撒布し多数のがん患者や障害児を発生させたばかりではなく、大量のアメリカ兵士の死傷者を出し、莫大な経済的損失を被った。
- お アメリカ政府は、過剰な海外介入を控える方針をとり、中国との関係改善とベトナム戦争からの米軍撤退を実現させた。

〔Ⅲ〕 つぎの文を読み、下記の問いに答えよ。

人類はきわめて古い時代から黄金を尊重していたらしい。ウルは紀元前 3000 年にまで遡る [ 1 ] 人の都市であるが、ここの遺跡から金の副葬品が見つかっている。紀元前 1600 年頃から紀元前 1200 年頃にかけて [ 2 ] を中心として栄えた [ 3 ] 文明の遺跡はシュリーマンが発掘して知られるようになったが、ここからは黄金のマスクが発見されている。エジプトの遺跡から発見されたツタンカーメンの黄金のマスクは有名であるが、この王は唯一神の信仰を強制したことで知られる [ 4 ] の義理の息子であり、マスクの制作は紀元前 14 世紀末頃であったと考えられる。

金を利用した装飾品で有名なのは、紀元前 6 世紀から紀元前 4 世紀頃にかけて南ロシア草原を支配した騎馬遊牧民 [ 5 ] である。この民族の金細工は動物の模様を特徴としており、同様の意匠を持つ金属加工品が遠く中国北部において発掘されていることからその影響力の広さがうかがえる。

金が尊重されたのは、その外見の美しさといつまでも輝きを失わない安定性、加工の容易さ、そしてきわめて稀少であったことが挙げられる。そうした性質を利用して作られたものが貨幣であった。金属を利用する貨幣を生み出したのは紀元前 7 世紀から [ 6 ] 半島南西部に栄えたリディアであった。リディアは紀元前 546 年に [ 7 ] を建国するキュロス 2 世によって滅ぼされる。この王朝の第 3 代の王 [ 8 ] は金貨・銀貨を鑄造して税制を整備したとされる。

さらに [ 7 ] を滅亡させた [ 9 ] も貨幣を作らせている。貨幣使用の習慣は地中海世界から西アジア世界にかけて普及するのである。

東アジアにおいても金は権力者の生活用品、死後の副葬品などに利用された。金は富を表すだけでなく、権力と権威を示すものでもあった。皇帝は服従を誓う周辺の支配者に金でできた印璽を与えたいらしい。日本でも「漢委奴国王」の金印が発見されている。授与されたのは [ 10 ] のこととされている。

金は手にした者に大きな力を与えるものであったから、どこか遠くにある金の産出地に赴き、その地域を支配したいと考える者があったのは当然であった。古くからヨーロッパでは、「スーダンの金」が知られていた。スーダンというのはサ

ハラ砂漠以南の広い範囲を意味していた。4世紀ごろアフリカ西部に建国された **11** はニジェール川流域に産出される金とサハラ砂漠でとれる塩の交易で栄えた。13世紀に建てられた **12** は **11** を建てた人々と同じ系統の人々であり、また同じ地域に建国されていた。この国の繁栄の基礎も同じ金と塩の交易で、14世紀の王マンサ＝ムーサはメッカ巡礼に際して大量の金を携えたと言われている。ポルトガルの船がアフリカ大陸に沿って大西洋を南下した背景には「スーダンの金」への憧れがあったらしい。ポルトガルによる探検は15世紀初頭に始まり、この世紀の末、**13** の治世にはポルトガル人は **14** にまで到達している。

インディアス、すなわちアジアで得られる金に関する伝説をヨーロッパに伝えたのはマルコ＝ポーロであった。13世紀後半に元に滞在したマルコ＝ポーロはその旅行記の中で、日本ではいたるところで金がとれ、宮殿の床は指2本分の厚さの黄金の板でできている、などと記している。今日からみればこの話はほとんどホラ話としか思えない。だが、**15**、鎌倉幕府が成立する数十年前、奥州藤原氏が建立した中尊寺には金箔を押しした金色堂があり、また平清盛が推進し、鎌倉時代中期まで続いた **16** との貿易で、日本は大量の砂金を輸出していた。マルコ＝ポーロの情報はあながちウソではなかったといえよう。

インディアスを目指して、ひたすら大西洋を西に向けて航海したコロンブスは金を得ることはできなかったが、彼の航海は思いがけない帰結を生んだ。コロンブスの後を受けて多くのヨーロッパ人が海を渡り、中南米を荒らしまわった。こうしたコンキスタドレスの一人であった **17** はインカ帝国の皇帝を殺し、帝国を滅亡させた。そして高い金の加工技術をもっていたインカの財宝は奪われ、持ち去られた。

近代になってからもアメリカやオーストラリアのゴールド＝ラッシュなど、金は多くの物語を生んでいる。だが、金に関わる19世紀の悲劇の一つは南アフリカの事例であった。ナポレオン戦争の経過により、オランダ領の **18** はイギリスの領有するところとなった。イギリスの支配を嫌ったオランダ系ブール人は北部に逃れて独自の国家を建設した。**19** 共和国はこのうちの一つで、その存在はイギリスによって承認されていたのだが、1880年代なかばに金鉱が

発見されるとイギリスはこの国の併合を図った。イギリスは抵抗するブール人を対象として焦土作戦を展開した。ブール人は敗北し、この土地は1902年にイギリス領となる。

20世紀後半、金が国際的な紛争を引き起こした事例は知られていない。だが、1971年、アメリカ大統領  が発表した金とドルの交換停止の措置は国際社会に驚愕を引き起こした。第二次世界大戦後、ドルが国際的な基軸通貨でありえたのは、常に一定の比率でドルを金に交換できたからであった。この措置はドルの価値を低落させ、それ以前の固定相場制にかえて変動相場制がとられることになった。最近、ヨーロッパ金融の不安定化にともなって金の価値が上昇していると伝えられる。金は世界の動きにあいかわらず連動しているのである。

問 文中の  ～  にもっとも適した語を記入して文を完成させよ。

ただし、用いる語は各々の番号に対応する語群の中から選び、その記号を解答欄にマークして答えること。

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1. a アッカド人    | b カッシート人   |
| c シュメール人      | d ヒッタイト人   |
| 2. a キプロス島    | b クレタ島     |
| c シナイ半島       | d ペロポネソス半島 |
| 3. a クノッソス    | b ティルス     |
| c トロイア        | d ミケーネ     |
| 4. a アメンホテプ4世 | b クフ王      |
| c トトメス3世      | d ラメス2世    |
| 5. a 匈奴       | b スキタイ     |
| c ドーリア人       | d フルリ人     |
| 6. a アナトリア    | b イタリア     |
| c シナイ         | d ペロポネソス   |
| 7. a アケメネス朝   | b アッシリア    |
| c アルサケス朝      | d 新バビロニア   |

- |       |            |            |              |             |
|-------|------------|------------|--------------|-------------|
| 8. a  | カンビュセス 2 世 | b          | ダレイオス 1 世    |             |
|       | c          | ダレイオス 3 世  | d            | ネブカドネザル 2 世 |
| 9. a  | アルダシール 1 世 | b          | アレクサンドロス 大王  |             |
|       | c          | フィリッポス 2 世 | d            | ミトラダテス 1 世  |
| 10. a | 紀元前 1 世紀   | b          | 紀元 1 世紀      |             |
|       | c          | 紀元 2 世紀    | d            | 紀元 3 世紀     |
| 11. a | アクスム王国     | b          | カネム = ボルヌー王国 |             |
|       | c          | ガーナ王国      | d            | ソンガイ王国      |
| 12. a | クシュ王国      | b          | ソンガイ王国       |             |
|       | c          | マリ王国       | d            | メロエ王国       |
| 13. a | イザベラ女王     | b          | エンリケ航海王子     |             |
|       | c          | ジョアン 2 世   | d            | フェリペ 4 世    |
| 14. a | アゾレス諸島     | b          | ヴェルデ岬        |             |
|       | c          | 喜望峰        | d            | セウタ         |
| 15. a | 8 世紀       | b          | 10 世紀        |             |
|       | c          | 12 世紀      | d            | 14 世紀       |
| 16. a | 北 宋        | b          | 唐            |             |
|       | c          | 南 宋        | d            | 明           |
| 17. a | カブラル       | b          | コルテス         |             |
|       | c          | バルボア       | d            | ピサロ         |
| 18. a | ギアナ        | b          | ケープ植民地       |             |
|       | c          | ニューアムステルダム | d            | ローデシア       |
| 19. a | オレンジ       | b          | トランスヴァール     |             |
|       | c          | ナタール       | d            | ローデシア       |
| 20. a | ケネディ       | b          | ジョンソン        |             |
|       | c          | ニクソン       | d            | ブッシュ        |